

ふりがな 氏 名	ささきもとひろ 佐々木 基裕	職 名	講師
取 得 学 位	修士(教育学)	学会での受賞歴	第65回関西社会学会大会奨励賞受賞
主な担当科目	教育原理Ⅰ、教育原理Ⅱ、道徳教育の理論と方法、教育課程論、教育社会学、教育制度論、保育・教職実践演習(幼稚園)、実践課題研究Ⅰ、実践課題研究Ⅱ、教育・保育基礎演習、卒業論文演習、卒業論文、海外スクールインターンシップ		
所 属 学 会	日本教育社会学会、日本社会学会、関西社会学会、日本高等教育学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
作成した教科書及び教材	平成30年3月	教科書『保育原理』(七猫社)
	令和元年7月	教材『シリーズ教育・保育の論点 教授法と子ども理解』(三恵社)
	令和3年7月	教材『シリーズ教育・保育の論点 新時代の学び』(三恵社)
その他	平成30年8月23日	名古屋女子大学教員免許状更新講習で、選択領域講習の講師を務めた。
	令和元年8月28日	名古屋女子大学教員免許状更新講習で、選択領域講習の講師を務めた。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備 考
著 書	1. 『教育・保育職シリーズ 5 教育・保育の新視点』	共	2018年3月	三恵社 (313頁)	編者:名古屋女子大学文学部児童教育学科 著者:佐々木基裕、他30名 分担:第1部「教育・保育の基礎的理解」第3章「学校教育における教育目標—教育政策としてのPDCA サイクルの検討—」(pp. 21-30)
	2. 『保育原理』	共	2018年3月	七猫社 (160頁)	編者:山本一成 著者:佐々木基裕、他7名 分担:第2章「保育の制度」(pp. 24-39)
	3. 『教育免許状更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド No.3』	共	2018年7月	三恵社	編者:名古屋女子大学文学部児童教育学科 著者:佐々木基裕、他23名 分担:第2章「小学校・中学校に

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
著書	4. 『シリーズ教育・保育の論点 教授法と子ども理解』	共	2019年7月	三恵社	<p>における教科の指導法」第7節「道徳科におけるモラル・ジレンマ教材活用にあたっての留意点—教師は答えを提示すべきか—」(pp. 136-144)</p> <p>編者:名古屋女子大学文学部 著者:佐々木基裕、他18名 分担:第1部「教育・保育の基礎理解」第4章「授業ばかりしているとバカになる—近年の教員調査における読書時間から—」(pp. 25-32)</p>
	5. 『シリーズ教育・保育の論点 新時代の学び』	共	2021年7月	三恵社	<p>編者:名古屋女子大学文学部 著者:佐々木基裕、他17名 分担:第1部「教育・保育の基礎理解」第4章「論壇雑誌にみる教育問題のトレンド:『現代思想』教育特集の分析」(pp. 25-32)</p>
論文	1. 生徒指導上の問題としての援助交際再考	共	2018年10月	昭和女子大学近代文化研究所『学苑』	pp. 53-63、歌川光一・鈴木翔・岡邑衛と共著
	2. 教職課程担当教員の専門性に関する研究動向—「教師教育者」および高等教育研究を中心に—	共	2019年3月	『名古屋女子大学紀要』第65号	pp. 243-255、杉原央樹と共著
	3. 大学における効果的な授業法の研究7(平成27~29年度)—学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法の開発—	共	2019年5月	『総合科学研究』第13号	pp. 1-47、遠山佳治・市村由貴・渋谷寿・白井靖敏・杉原央樹・竹内正裕・豊永洵子・羽澄直子・服部幹雄・原田妙子・野内友規・山田勝洋・三宅元子・吉川直志と共著
	4. 新教育課程に向けた音楽カリキュラム構築と教育法の確立	共	2019年5月	『総合科学研究』第13号	pp. 49-57、稲木真司と共著
	5. 創立者越原春子および女子教育に関する研究(平成28年度~30年度)	共	2020年5月	『総合科学研究』第14号	pp. 1-86、河合玲子・遠山佳治・豊永洵子・藤巻裕昌・三宅元子・吉川直志・吉田文と共著
	6. 近代日本における音楽教育の変遷をふまえた今	共	2020年5月	『総合科学研究』第14号	pp. 87-96、稲木真司と共著

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	の日本に必要な音楽・音感教育のあり方				
	7. なぜピル(経口避妊薬)について教えられないのか?—性教育・学習指導要領・隠れたカリキュラム—	単	2021年1月	名古屋女子大学文学部 児童教育学科編『児童教育論集』第4号	pp. 30-39
	8. 近代日本における音楽教育の変遷をふまえた今の日本に必要な音楽・音感教育のあり方II	共	2021年5月	『総合科学研究』第15号	pp. 27-36、稲木真司と共著
	9. 論壇雑誌にみる教育問題のトレンド(2):『現代思想』大学特集の分析	共	2021年12月	名古屋女子大学文学部 児童教育学科編『児童教育論集』第5号	pp. 19-25
学会発表	1. 現代日本の若者にとって「朝ドラ」とは何か?—質問紙調査及びインタビュー調査から	共	2019年3月23日	中国文化大学日本語学科・京都大学教育学研究科共催シンポジウム「越境する「朝ドラ」——その過去・現在・未来(「越境的「晨間劇」:晨間劇的過去, 現在與未來)」(中国文化大学)	稲垣 恭子・竹内 里欧・濱 貴子・佐々木 基裕・花田 史彦・椎名 健人 口頭発表
	2. ポスト近代社会における「成長物語」—「連続テレビ小説」を手掛かりに	共	2019年9月12日	第71回日本教育社会学会(大正大学)	稲垣 恭子, 竹内 里欧, 濱 貴子, 井上 慧真, 佐々木 基裕, 花田 史彦, 椎名 健人 口頭発表
	3. 女性の修養(主義)における成功・実利:歌川光一『女子のたしなみと日本近代—音楽文化にみる「趣味」の受容』における教育の歴史社会的検討を通じて	単	2021年12月18日	風俗史学会中部支部 2021年12月例会	
	4. 現代思想は余暇研究にどのように影響したか?	単	2022年12月24日	日本社会教育学会 プロジェクト研究「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」第1回公開研究会	

